

2015年3月期 決算説明会

2015年 5月 26日 株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部:9037



【三重センター 完成予想図(2015年12月竣工予定)】

- I. 2015年3月期 決算概況
- Ⅱ. 2016年3月期 計画
- Ⅲ. 2015年3月期 決算実績
- Ⅳ. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

I.2015年3月期決算概況

Ⅰ-1. 2015年3月期の業績

営業収益は、919億 24百万円 (前年同期比 △0.0%) 経常利益は、 70億 19百万円 (前年同期比 +14.7%)の減収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営 業 収 益 91,924百万円	△44百万円 -	△76百万円 (△0.1 %)	・物流センター事業での既存荷主の物量減 ・運送事業での新規荷主の獲得および近物レックス㈱での 運賃単価の料金見直し
営 業 利 益	+813百万円	+230百万円	・物流センター事業での部長会実施による業務効率化
6,730百万円	(+13.8%)	(+3.5%)	
経 常 利 益	+897百万円	+419百万円	・太陽光発電収入増加・支払利息減少による
7,019百万円	(+14.7%)	(+6.3%)	
当 期 純 利 益	+824百万円	+490百万円	・前期、特別損失発生のため
3,890百万円	(+26.9%)	(+14.4%)	

^{※1} 計画は、2014/5/8発表数値との比較



I-2. 業績推移

(百万円)

						(日77日)
			Æ	小口		134 44 47
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	増減額 <u>(率)</u>
営業収益	85,225	89,718	88,943	91,968	91,924	△44 (△0.0%)
営業利益	5,455	6,311	5,838	5,916	6,730	+813 (+13.8%)
経常利益。	5,705	6,336	5,956	6,121	7,019	+897 (+14.7%)
当期純利益	2,563	3,275	3,101	3,066	3,890	+824 (+26.9%)



I-3. 収益構造



	連結業績				
営業収益	減 収				
営業利益	増 益 (過去最高)				
経常利益	増 益 (過去最高)				
当期純利益	増 益 (過去最高)				

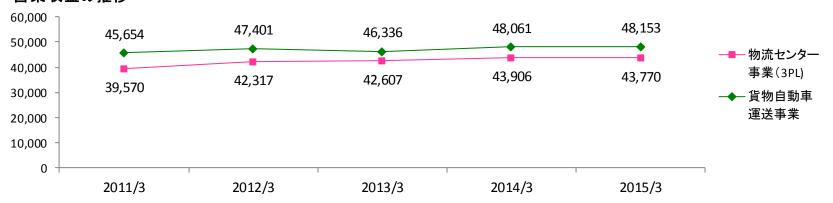


Ⅰ-4. セグメント情報の推移

(連結:百万円)

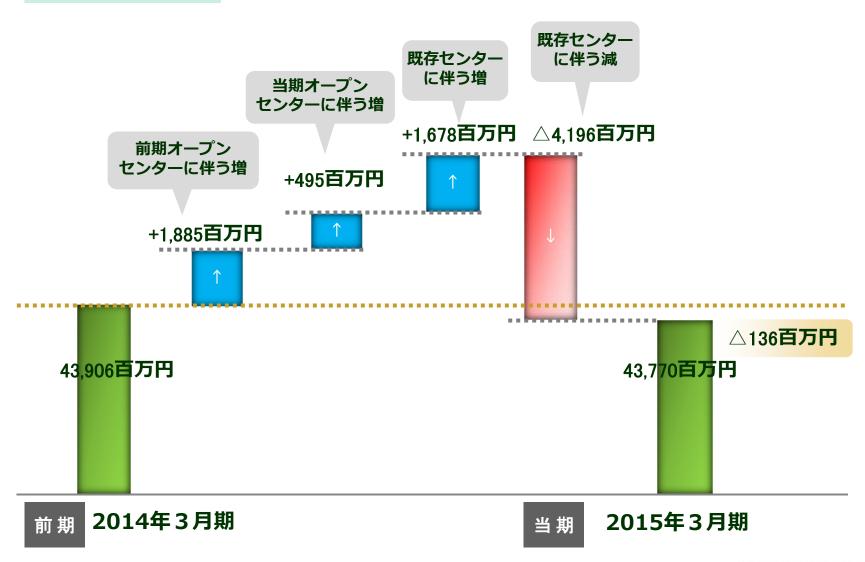
		2011/3 (構成比:%)	2012/3 (構成比:%)	2013/3 (構成比:%)	2014/3 (構成比:%)	2015/3 (構成比:%)	増減 (増減率;%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	39,570 (+46.4%)	42,317 (+47.2%)	42,607 (+47.9%)	43,906 (+47.7%)	43,770 (+47.6%)	△136 (△0.3%)
	営業利益	4,285	4,991	4,434	4,203	4,670	+467
貨物自動車	営業収益	45,654 (+53.6%)	47,401 (+52.8%)	46,336 (+52.1%)	48,061 (+52.3%)	48,153 (+52.4%)	+91 (0.2%)
運送事業	営業利益	1,166	1,315	1,396	1,711	2,055	+344

営業収益の推移



I -5. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況



Ⅰ-6. 物流センター事業の稼働状況

₩ +T. □ □	前期受託	当期	稼働		当期	
取扱品目	未稼働	受託	既存※1	新規※2	未稼働	memo
食品					1	
繊維・アパレル	1社	2社	1社	2社	ı	
医薬・医療	1社	4社	3社	2社	_	
雑貨		8社	3社	2社	3社	当期受託3社
計	2社	14社	7社	6社	3社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

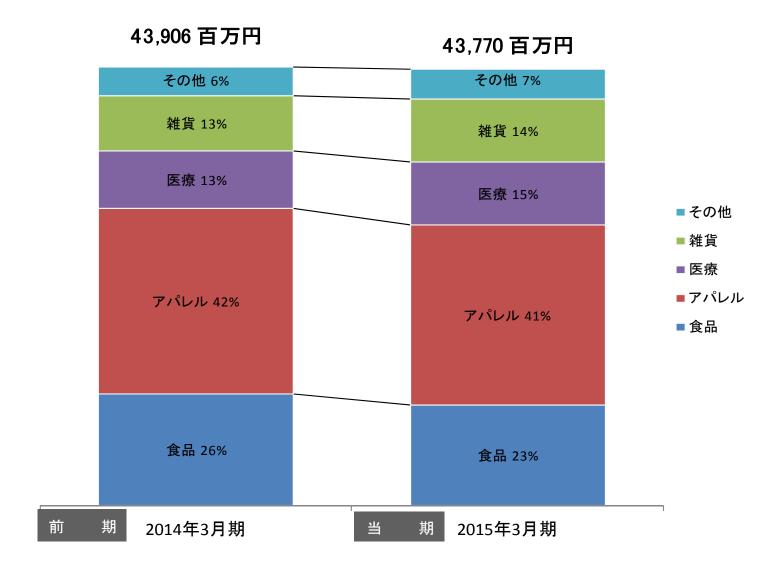


物流	十、	/夕-	—数
727 7711.			~~

2015年3月31日現在

自社センター	23 (232,122m²)
借用センター	57 (639,052m²)
計	80 (871,174m²)

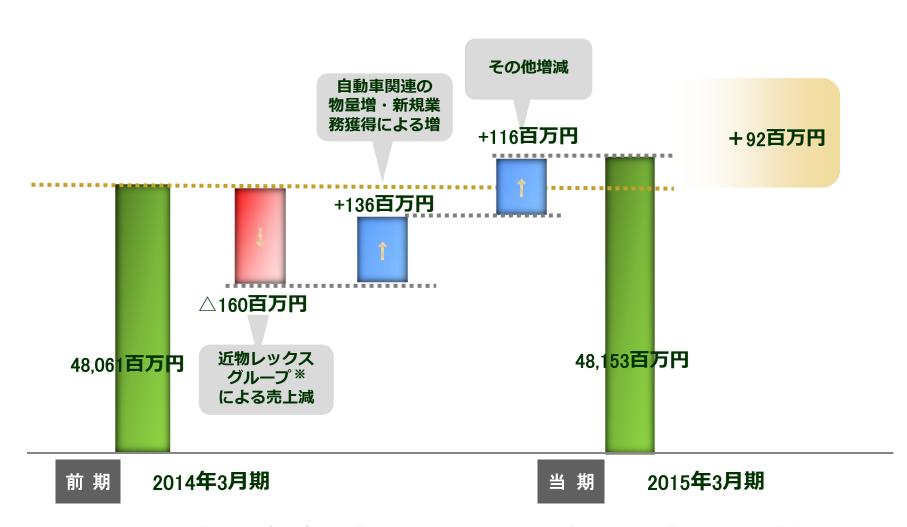
I-7. 物流センター事業の取扱品目別売上高





Ⅰ-8. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス㈱とその子会社3社です。(都運輸㈱、三重近物通運㈱、茨城県貨物自動車運送㈱)

Ⅱ.2016年3月期計画



Ⅱ-1. 2016年3月期 業績予想

(百万円)

				連結業績			
				計画	前期比 (増加率)		
営	業	収	益	94,000	+2,075 (+2.3%)		
営	業	利	益	7,400	+669 (+9.9%)		
経	常	利	益	7,500	+480 (+6.9%)		
	社株 当期			4,000	+109 (+2.8%)		
設	備	計	画	13,000	***		

(平成27年5月7日公表数值)

(百万円)

セグメント別業績予想		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	45,300	+1,529	(+3.5%)
物流センター争未	営業利益	5,020	+349	(+7.5%)
貨物 自動車	営業収益	48,700	+546	(+1.1%)
運 送 事 業	営業利益	2,380	+324	(+15.8%)

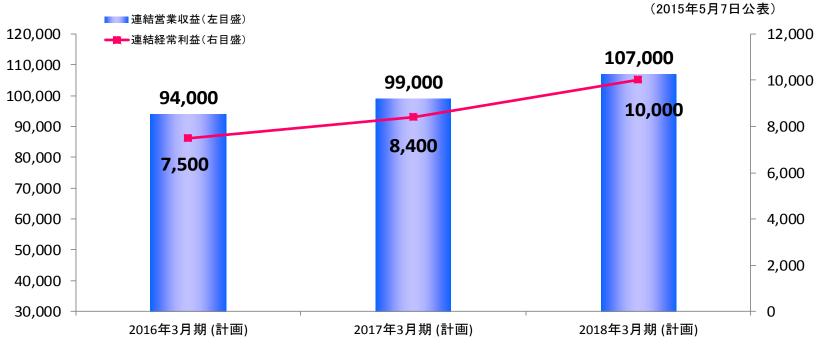


Ⅱ-2.経営指標

	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	392.18	371.24	367.09	465.81	478.87
自己資本当期純利益率(%) [ROE]	14.5	12.2	10.9	12.4	10.8
1株当たり純資産(円) 〔BPS〕	2,879.58	3,221.62	3,521.09	3,964.69	4,443.57
総資産経常利益率(%) [ROA]	7.5	6.9	7.0	7.6	7.1
営業収益営業利益率(%)	7.0	6.6	6.4	7.3	7.9
営業収益経常利益率(%)	7.1	6.7	6.7	7.6	8.0
1株当たり配当金(円)	38	40	42	44	46

Ⅱ-3. 中期経営計画

			(百万円)
	2016年3月期 (計画)	2017年3月期(計画)	2018年3月期(計画)
	連 結	連 結	連 結
営 業 収 益	94,000	99,000	107,000
経 常 利 益	7,500	8,400	10,000
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	4,000	4,500	5,300
1株当たり当期純利益	478.9	538.7	634.5
営業収益経常利益率	8.0%	8.5%	9.3%
設備投資計画	130億円	30億円	90億円



Ⅱ-4. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3 P L を成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、提案型物流企業をめざす 各支社及び統括部、管理部が一体となり、無駄なコストの削減をはかる センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

2. 3つのキーワードを中心とした取組みの継続

「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」の既存路線を踏襲した上で、更なる高 みを目指し、挑戦してまいります。

3. 3PL事業とグループ会社の融合

グループ各社の既存の業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用した事業展開を図ってまいります

4. 新規顧客獲得に向けた取組み

既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う

物流センター事業での年間受託目標15社以上の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



皿. 2015年3月期 決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

ı						<u>(日7月)</u>		
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	22,534	+289 (+1.3%)	22,598	+411 (+1.9%)	24,487	△452 (△1.8%)	22,302	△293 (△1.3%)
営業利益	1,606	+276 (+20.8%)	1,543	+274 (+21.6%)	2,174	+53 (+2.5%)	1,405	+208 (+17.5%)
経常利益	1,729	+359 (+26.3%)	1,644	+321 (+24.3%)	2,227	+41 (+1.9%)	1,417	+174 (+14.0%)
当期利益	996	+275 (+38.2%)	921	+427 (+86.4%)	1,206	△2 (△0.2%)	765	+124 (+19.4%)



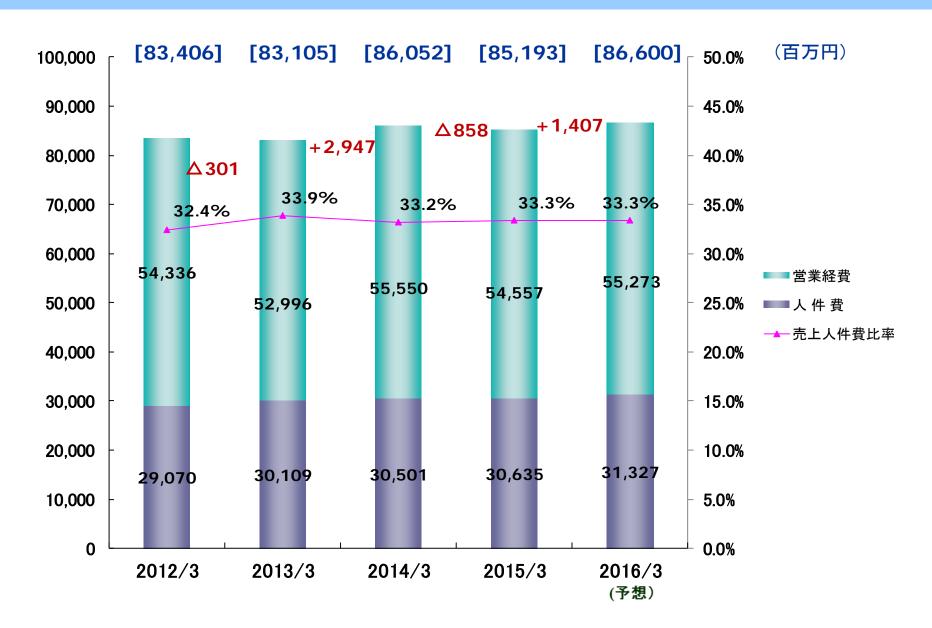
Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

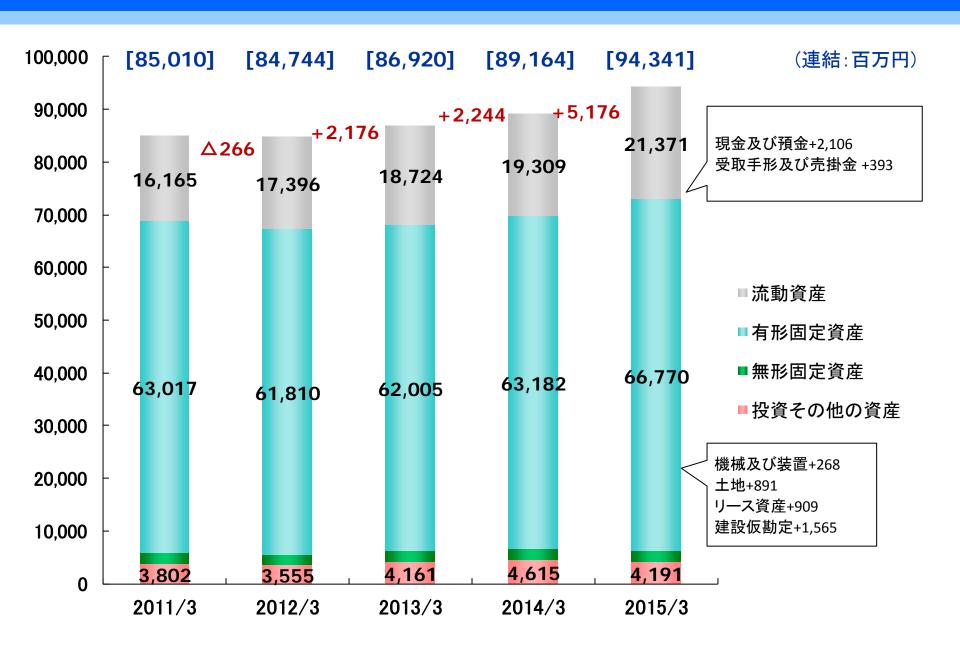
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流セ	営業収益	10,742	+196 (+1.9%)	10,644	+235 (+2.3%)	11,887	△478 (△3.9%)	10,495	△90 (△0.9%)
ンター	営業利益	1,288	+317 (+32.6%)	1,021	+179 (+21.3%)	1,477	+0 (△0.0%)	883	△28 (△3.1%)
貨物自動	営業収益	11,792	+93 (+0.8%)	11,954	+176 (+1.5%)	12,599	+25 (+0.2%)	11,807	△203 (△1.7%)
貨物自動車運送	営業利益	317	△40 (△11.3%)	521	+94 (+22.2%)	696	+53 (+8.3%)	520	+236 (+83.7%)



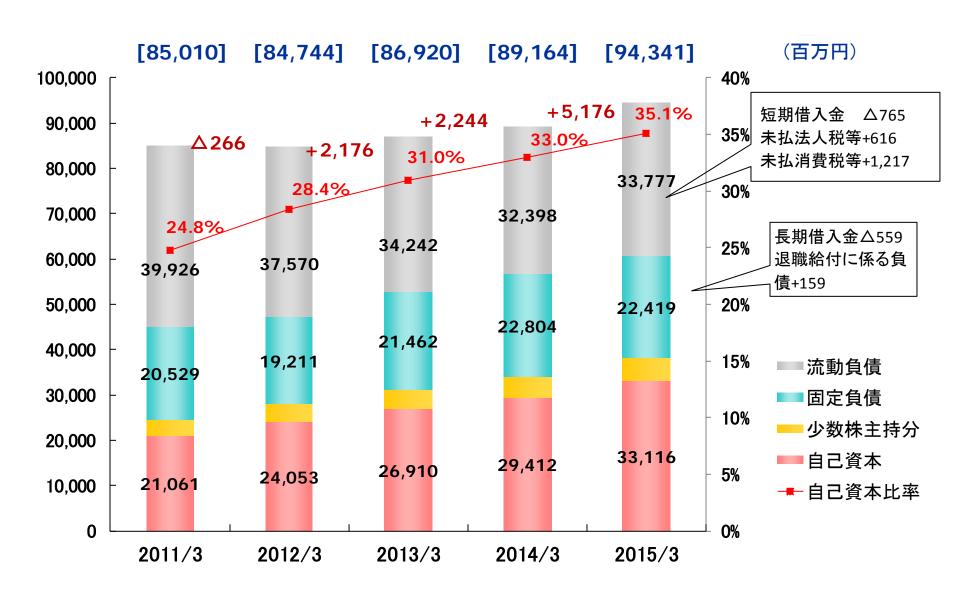
Ⅲ-3. 経費・人件費



Ⅲ-4. 貸借対照表〈資産〉

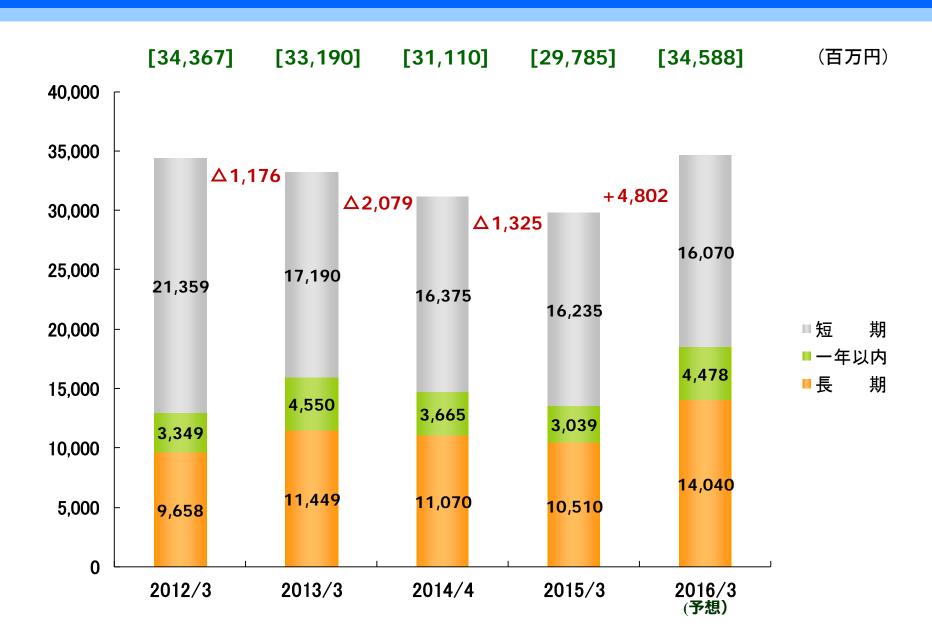


Ⅲ-5. 貸借対照表 <負債・純資産>

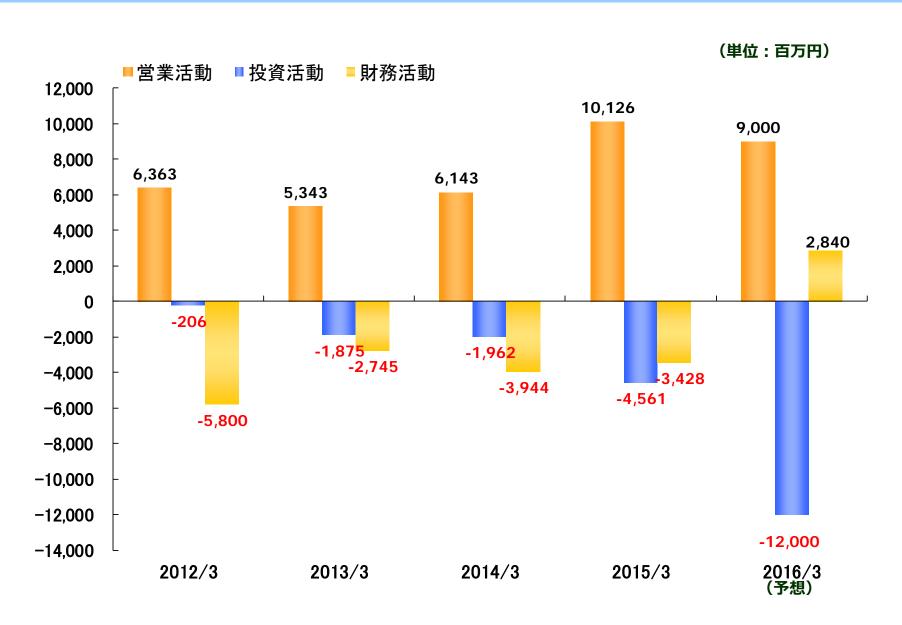




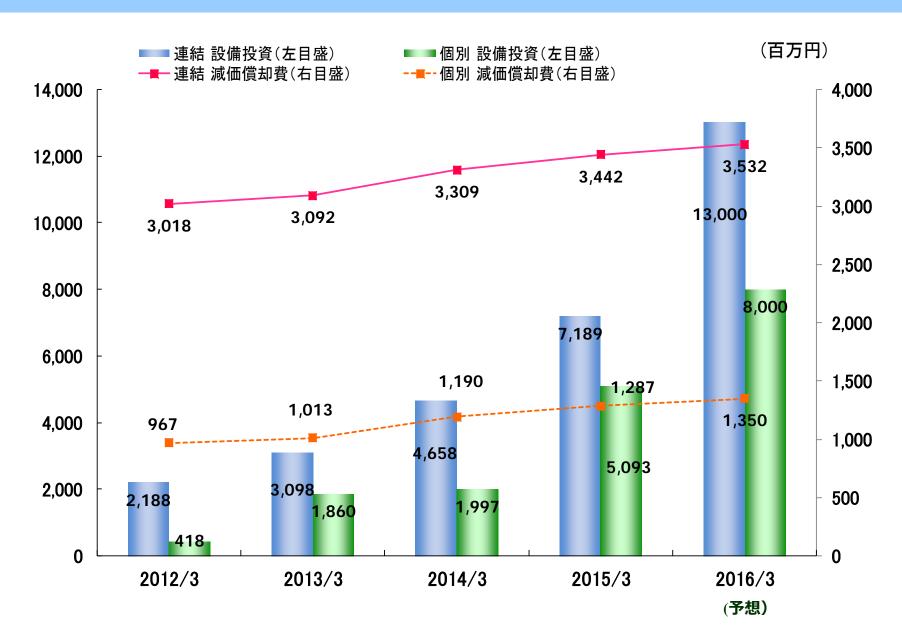
Ⅲ-6. 有利子負債(借入金)



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略

Ⅳ-1. 近物レックス 平成27年度3月期業績

(百万円)

	(ロバ)」						
		実 績	計画				
	2014/3	2015/3	前期比 (増減率)	2015/3	計画比 (増減率)		
営業収益	36,787	36,681	-106 (-0.3%)	37,507	-825 (-2.2%)		
営業利益	685	945	+260 (+38.0%)	681	+264 (38.9%)		
経常利益	575	908	+333 (+58.0%)	603	+305 (+50.6%)		

Ⅳ-2. 近物レックス 業績推移

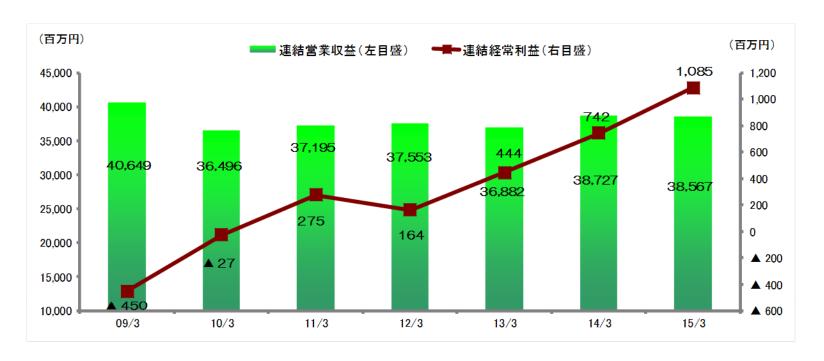
(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)							近物レックス単体	
	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	増減額 (率)	2015/3	増減額 (率)	
営業収益	37,195	37,553	36,882	38,727	38,567	-160 (-0.4%)	36,681	-106 (-0.3%)	
営業利益	263	393	600	856	1,113	+256 (+30.0%)	945	+260 (+38.0%)	
経常利益	275	164	444	742	1,085	+342 (+46.1%)	908	+333 (+58.0%)	
当期純利益	-58	239	257	299	576	+276 (+92.4%)	465	+277 (+147.8%)	

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。



Ⅳ-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	減収	減収
営業利益	8期連続 <mark>増益</mark>	8期連続増益
経常利益	3期連続 <mark>増益</mark>	3期連続増益
当期純利益	6期連続 <mark>増益</mark>	増益

Ⅳ-4. 近物レックスの26年度成果

1. 運賃是正の推進

- 「新運賃への切替」を推進 (単価7%上昇)
- ・地場輸送の大口受注により配送効率が向上 (月間) 関西1,200トン・信州600トン
- ・太陽光売電事業の開始 (27年度拡大予定)
- ・3 カ月点検を休日に実施 (車輌稼動の向上)



2. 安全への取組み

- ・事故防止の重点実施策を明確化
- ・管理職を対象とした研修会を定期開催 (法令順守・事故防止に対する意識向上)
- ・中型車両へのデジタコ装着(初年度530台)
- •環境整備
- 輸送補助器具の導入





Ⅳ-5. 近物レックスの27年度取組み

1.収益性の向上

- ・「新運賃への切替」を継続
- ・新規獲得による増収
- ・同業とのアライアンスの実現

2.輸送の安全

- ・事故防止の重要施策の浸透により交通事故の撲滅
- ・原因追求と責任明確化により再発防止を強化(商品・労災)



3.労働力の確保

- ・静岡県内での募集強化
- ・多角的に採用活用(採用実績校の拡大、HPの活用、社員紹介)

4.設備投資

- ・新店舗用地の購入
- ・既存設備の修繕





Ⅳ-6. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	実 績	計	画		
	2015/3	2016/3	計画比 (増減率)		
営業収益	36,681	37,574	+893 (+2.4%)		
営業利益	945	1,255	+310 (+32.7%)		
経常利益	908	1,212	+304 (+33.4%)		



V. 参考情報



V-1. 経営理念

「物」に携わる者として、

「人と接するときは、心を込めて」 「仕事をするときは、初心を忘れず前向きに」 「物を扱うときは、心を込めて丁寧に」 「物を運ぶときは、心を込めて安全に」 「如何なるときにも感謝の心を大切に」

を基本テーマに取組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、 地味ではあるが信頼された重要な存在。 当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の 展開と継続的で質の高い成長を図り、 お客様第一、品質第一を基本に、企業としての 社会的責任を果たしてまいります。 また、短期的な収益にとらわれず、 長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における 質的内容の日本一を目指します。





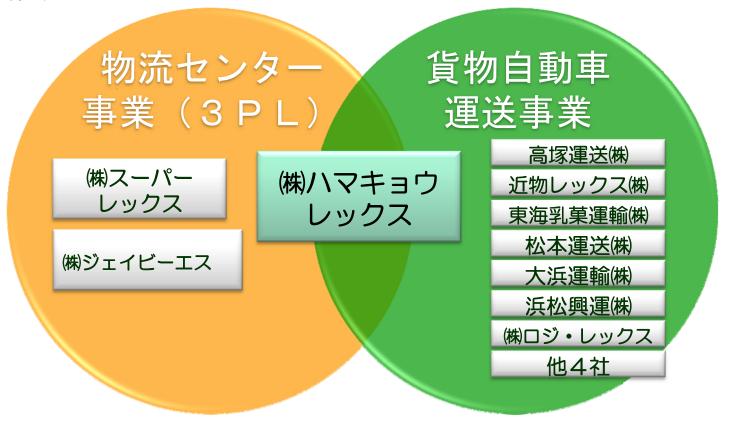
V-3. プロフィール

会社概要(2015年3月31日現在)

- 資 本 金 40億4,505万円
- 決 算 期 3月31日
- 従業員数連結4,034名、単体689名
- 発行済株式数 8,356,000株
- 株 主 数 2,576名
- 事 業 内 容 物流センター事業 (3PL) 、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 13社
- 売 上 高 連結 919億24百万円 (2015年3月期) 単体 367億73百万円
- 経 常 利 益 連結 70億19百万円 (2015年3月期) 単体 42億16百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、 <u>物流センター事業</u>と<u>貨物自動車運送事業</u>を中心に 展開しております。



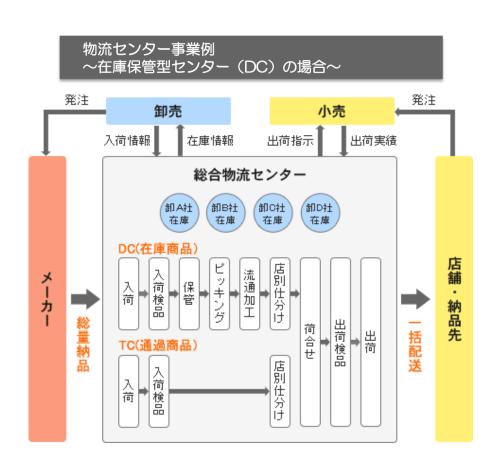
V-5. 物流センター事業

当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革 を提案し包括して物流業務を受託す ること』であり、一般的には、『荷主様 が物流業務を外部委託(アウトソーシ ング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削 減」「戦略的ロジスティクスの構築によ る利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提 案し、「物流を通じてお客様へ利益を 還元する」ことが最も重要な役割であ ると考えております。



Ⅴ-6. 当社の特長・強み

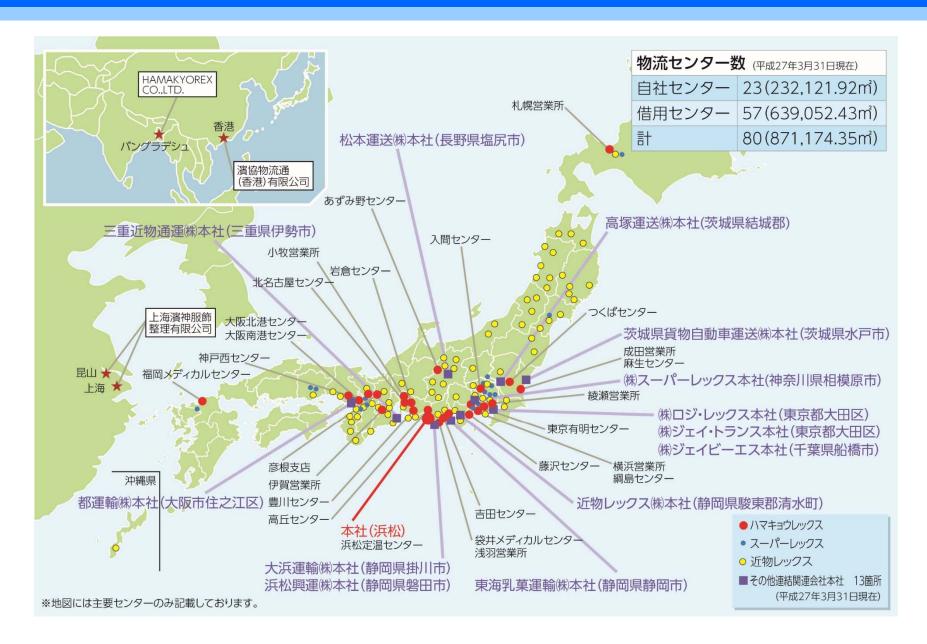
コスト競争力 現場力

当社は、「コミュニケーション」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「全員参加」による現場主導での自社運営を実施。「日計収支**」・「アコーディオン方式**2」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。 これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

V-7. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

- 執行役員管理部長
- 経営企画室 課長 TEL 053-444-0054

山田 力也 竹内 義之



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。